

認定心理士の会から

地域ごとの活動の活性化に向けて

認定心理士を取得すると、何の役に立つのですか？……10年ほど前に某大学で「心理学」の非常勤講師をしていた時、受講生に質問されました。当時の僕は、よくわからないんだよね、と正直に答えてしまいました。あれから8年経って、認定心理士を取得し、認定心理士の会の幹事になりました。現在、冒頭の質問に対する回答に繋がるような、認定心理士の相互交流や研鑽のための場を創るべく、幹事会での活動に取り組んでいます。

会設立の初年度（2016年度）に開催したシンポジウムやセミナーを通して、会員同士が出会い、繋がりができたことと思います。ゆくゆくはこの「繋がり」が、勉強会のような自主的な活動に発展するようにしたい、というのが幹事会の意図するところです。そういう活動を支援し促進するため、地方支部会を設立しました。

現在、北海道、東北、関東、東海、北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の8つの地域ごとに、地方支部会が設立されました。2名程度の幹事を立て、キックオフイベントの準備を進めています。この原稿が掲載される10月から12月にかけて、北海道、東北、東海、北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の各支部がキックオフイベントを行います。詳しくはニューズレターや認定心理士の会Facebookページ（ぜひ、「いいね！」をお願いします！）で順次お知らせします。

会員の皆さん、お住まいの地方支部会の活動に、ぜひご参加ください。こんな企画をしたい、あの先生の講演を聴きたい、この分野の先生を探している、などなど、各地域の幹事にリクエストしてください。あるいは、地方支部会の幹事への立候補も大歓迎します。地域における会の活動を、共に盛り上げていきましょう。

（認定心理士の会幹事 渡邊伸行）

若手の会から

5年間の活動をふりかえって

若手の会が発足して早5年がたちました。月並みな言葉ですが本当にあつと言う間です。私は若手の会への参加資格（学位取得後10年以内）を超え、卒業することになりました。鈴木華子さんと一緒に世話人を始めた時期が、ちょうど私がポストドクから研究室を主催する立場になった年でもあり、それまで研究一筋だった環境から、教育や運営に色々としりこみしてきた5年間でした（今も試行錯誤していますが）。

若手の会の大きな特徴として、分野の多様性が挙げられると思います。心の学問としての心理学は、言うまでもなく多岐に亘ります。脳科学や人工知能、ロボティクスといった最近流行りの分野も、心理学と無関係ではありません。臨床面でも発達障害や認知症等がマスコミでよく特集されるほど注目されています。文理融合や学際性といった言葉では収まらないほどの多様性や可能性を有している心理学だからこそ、

将来を担う若手の力が求められているのではないのでしょうか。基礎と応用との融合は古くて新しい問題ですが、次世代の学術や社会貢献を生み出すのは若手の役目だと思います。

最近若い人の元気が無いという声も聞かれます。博士の就職難が叫ばれて久しく、若手をとりにまく環境やキャリアパスも厳しいものがあるかもしれません。ただ環境や将来について思い悩むよりも、まず行動してみることも大事です。大いに悩む事が大切な時もありますが、若い頭脳を悩むことばかりに使うのはもったいない！日々の研究や活動に悩んだら、視野を広げて若手の会の活動にもぜひ参加してみてください。

私がバトンタッチする次の共同代表は、前田駿太さんです。前田さんは既に幹事として、過去2年半にわたって会の運営を支えてくれています。鈴木さんと前田さんの新しい体制でさらなる会の発展に期待したいと思いますので、引き続き若手の会を宜しくお願い致します。

（若手の会OB 小川健二）